

第6回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年6月27日（金）
午後5時30分～7時
会場：諏訪実業高校 会議室

次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 新構成員自己紹介
- 4 会議事項
 - (1) これまでの流れと今年度の予定
 - (2) 第5回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
 - (3) 学びのイメージに係る意見交換
- 5 その他
 次回の予定 調整中
- 6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

(敬称略) 下線 新構成員

○ 座長

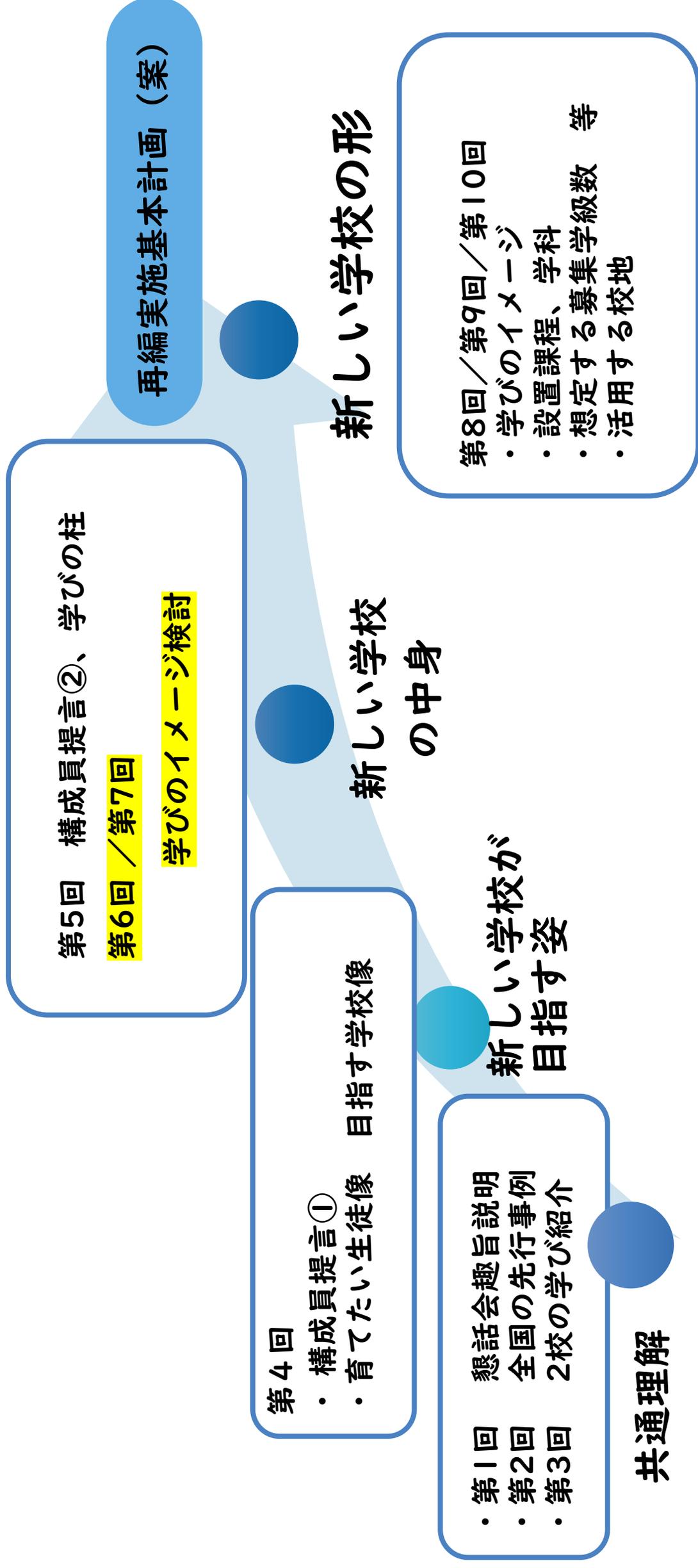
		氏名 (座長○)	所属等	役職等
1	自治体	藤澤 正	岡谷市	副市長
2		後藤 慎二	諏訪市	副市長
3		宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長
4		三輪 晋一	諏訪市教育委員会	教育長
5		松崎 泉	下諏訪町教育委員会	教育長
6	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所	副会頭
7		白鳥 和美	諏訪商工会議所	副会頭
8	学識経験者	○市川 純章	公立諏訪東京理科大学	地域連携総合センター長
9	地域	宮坂 和幸	セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部	総務部長
10		高林 千幸	岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	館長
11		竹花 顕宏	諏訪地域振興局	局長
12	同窓会	小松 壮	(一社) 岡谷工業高等学校同窓会	理事長
13		木村 明美	諏訪実業高等学校同窓会	副会長
14	定時制振興会	山田 幸男	定時制振興会	会長
15	PTA	宮坂 征和	岡谷工業高等学校 P T A	P T A 会長
16		宮川 美咲	諏訪実業高等学校 P T A	P T A 会長
17		田畑 幸司	岡谷市 P T A 連合会 代表	会長
18		佐藤 太郎	諏訪市 P T A 連合会 代表	会長
19	小中学校等 関係者	飯嶋 政泰	諏訪小学校長会 代表	長地小学校長
20		増村 隆洋	諏訪中学校長会 代表	諏訪,南中学校長
21		高坂慎太郎	諏訪養護学校	教頭
22	再編対象校	中嶋 健太	岡谷工業高等学校	生徒会長
23		村田 秀斗	岡谷工業高等学校	生徒会副会長
24		橋詰 正克	岡谷工業高等学校	校長
25		清水 哲	岡谷工業高等学校	教職員
26		濱 蒼太	諏訪実業高等学校	生徒会長
27		西川 みく	諏訪実業高等学校	生徒会副会長
28		有賀 浩	諏訪実業高等学校	校長
29		馬場美江子	諏訪実業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏名 (役職等)	氏名 (役職等)
岡谷工業高等学校	(教頭) 飯島 健二	
	(教諭) 御子柴 久雄、見波 泰、山口 隆、小池 作治、清水 哲	
諏訪実業高等学校	(全日制教頭) 楯 和弘、(定時制教頭) 山本 正和	
	(教諭) 現田 康太郎、馬場 美江子、小川 淳子	

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	依田 奈弓	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課	指導主事

「再編実施基本計画（案）」策定スケジュール



「岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会」のスケジュール（案）

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会	内 容
R 5	1月	第1回懇話会	○「県教委より説明」 実施方針、再編・整備計画【三次】の説明
R 6 年 度	6月	第2回懇話会	○両校生徒による学校・学びの紹介、発表 ○現在の各校の取り組み、新校への期待など（グループ）
	8月	第3回懇話会	○先進事例報告 鳴門教育大学 藤村裕一教授 「これからの高校を考える」
	11月	第4回懇話会	○産業界、高等教育機関からの提言 諏訪商工会 副会頭 白鳥和美様 諏訪東京理科大学 教授 市川純章様 ○意見交換（グループワーク） 「育てたい生徒像、目指す学校像」
	1月	第5回懇話会	○産業界からの提言 岡谷商工会 副会頭 木下俊彦様 セイコーエプソン株式会社 宮坂和幸様 ○意見交換（グループワーク） 「新しい学校での学びの具体について」
R 7 年 度 〜	5月下旬～ 6月	第6回懇話会	○学びのイメージ原案検討①（全体討議）
	7月～	第7回懇話会	○学びのイメージ原案検討②（全体討議） ○県外先進校 視察報告 <校地検討会議①>
		第8回懇話会	○学びのイメージ（案）検討 ○開校年度、募集学級数、統合方法等検討 <校地検討会議②>
		第9回懇話会	○再編実施基本計画（案）検討 <校地検討会議③～> * 「活用する校地の検討」の終了まで実施
		第10回懇話会	○再編実施基本計画（案）確定

新校準備委員会を中心に 校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など
細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換

第5回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和7年1月21日(火) 17時30分～19時00分		
場所	諏訪湖ハイツ コンベンションホール		
出席 (敬称略)	後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、松崎泉、木下敏彦、◎市川純章、宮坂和幸、高林千幸、小松壮、佐藤亨、芳澤秀樹、笠原康弘、竹野入将宏、高坂慎太郎、中嶋健太、村田秀斗、弓削俊宏、清水哲、濱蒼太、西川みく、加藤泰久、松下明世、木村明美 以上23名		
欠席 (敬称略)	藤澤正、白鳥和美、竹花顕宏、櫻井洋、増澤義治、河手正彦、以上6名	傍聴者	2名 報道関係4社
事務局	岡谷工業高校	飯島教頭、御子柴教諭、原教諭、山口教諭、飯島教諭	
	諏訪実業高校	楯教頭(全日制)、三間教頭(定時制)、服田教諭、小川教諭	
当日資料	第5回懇話会資料、会場配置図、提言資料		

会議事項

- (1) 第4回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめについて
- (2) 学びのイメージに係る意見交換 テーマ「生徒がどんなことができる学校にしたいか」
- (3) その他

学びのイメージに係る意見交換(概要)

- (1) 第4回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (⇒意見なし 承認)

- (2) 学びのイメージに係る意見交換 テーマ「生徒がどんなことができる学校にしたいか」

①産業界からの提言

○岡谷商工会議所副会頭 木下 敏彦 様

- ・専門高校同士の統合は、特徴が発揮しやすく、有機的に絡み合って融合しこれからの時代にふさわしい新校になると期待している。
- ・「総合ビジネスハイスクール構想」を提言する。まず企業の経営者と直接話したり、地域の社会課題や街づくりなどに触れたり、自分の好きなことからビジネステーマを見つけてそれについて仲間と議論する「ビジネステーマの探究」ができる機会があればよい。次に、ビジネスの基礎と面白さを学んでもらいたい。諏訪圏域は製造業の企業数が他の地区に比べてたくさんあるので、地域企業と連携して、経営理念から事業計画、営業戦略を学んでみる。さらに、地域の金融機関から講師を招き、資金面の学習をする。その学習の延長線上に実践があり、チャレンジ&エラー&ラーンを経験してほしい。
- ・地域が連携して生徒及び学校を育てることが大事。すでに両校に係った人たちがおり、垣根を越えて新校に対する当事者意識をもつべきだ。地域の方を学校に講師として招き、探究ができればよい。
- ・定時制では、働きながらビジネスパーソンを目指してほしい。

○セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部総務部長 宮坂 和幸 様

- ・会社概要：プリンターからプロジェクター、産業ロボットと拡大。日本のシェアより海外が主になっている。「省・小・精」が会社理念。企画開発から販売まで一貫通している。様々な役割を担う社員がコミュニケーションを取りながら社会課題に取り組んでいる。
- ・人材を取り巻く環境の変化：一つの技能を持っていればよいという時代から変化し、多様な人材とともに作業ができる人が重要。かつ、自分がどうやって企業の中で働いていこうか自ら考えられる人が求められている。最近の若手社員の傾向として、まじめだが、困難にぶつかった時に周りに相談できず、さらに指示待ちになってしまう。
- ・求められる力：社会人となると未体験の連続で、様々な課題にぶつかる。様々な対人関係を築かなければならない。また納期もコンプライアンスも厳しく求められる。そういったことに対応するために、創造性、チャレンジ精神、粘り強さ、コミュニケーション能力が必要となる。グローバルで活躍できる人材としては、語学力もさることながら海外で働く意欲が必要。このような力をつけるために、高校、大学では、問題課題を明確にする分析力や洞察力をつけてほしい。そのための

道具、合理的思考を自分のものにしてきてほしい。最後は、健康が第一で、自己管理ができていてほしい。

②グループワークまとめ グループからの発表

グループA

- ・地域に飛び出していき企業または行政を巻き込んだ実践的な活動
- ・eスポーツなど生徒が興味をそそるような部活／・オールラウンダーな生徒を育てたい

グループB

- ・両校の専門性を入学後に深くではなく短い期間で学び、コース変更できるとよい
- ・自主自立の精神を大切に校則も自ら考える／・失敗を恐れずトライアンドエラーの経験をする
- ・AI や DX があるが最後は人間力が大切

グループC

- ・専門性を深められる両校の統合を活かして地元企業とコラボできるような専門性を高めてほしい
- ・指示待ちの傾向があるが、チャレンジを実現させる機会や最先端の学びで自信を持たせる
- ・スポーツを体験した人は比較的コミュニケーション力が高い傾向があるのではないか
- ・色々なことを知ることで幅広いことに興味を持つことができ、社会に出て楽しく明るく働ける人になる

グループD

- ・多様な学びをしたい。専門性あるいは学科を超えて学びたい／・課題研究の幅が広がる
- ・合併を待たずに今からでもできることをテスト的にやっていくと意欲も湧く
- ・両校だけでなく諏訪理科大など大学との繋がりも持ちたい

グループE

- ・高校でも人間力を磨きたい
- ・諏訪の地域の技術継承をどのようにしていくかを考えると基礎が大事
- ・自分の学びが現実の何につながっているか知ってから学ぶと、より幅広く知識が吸収できる
- ・社会から教えてもらって生徒の力を伸ばす／・起業家精神の育成

座長まとめ

充実した話し合いになっていた。何をしたいか、なぜそう思うのかの二つの側面を話してもらった。問題意識を共有すると、その先の話し合いに広がりが出る。とことん話し合うことが大事である。それぞれの選出母体でもディスカッションをしてほしい。

今後の視点として、中学の次の学齢のタイミングである高校時代には、どのような学びが必要か考える必要がある。先日の講演でも話したが、高校時代に動機を強く持てれば、大学では専門の吸収ができる。社会のシステムとしての役割分担というのも考えてもよい。そのために、全部思うところを出して判断していければよいと考える。

その他

【次回】 調整中



地域とともに未来を創るものづくり教育

岡谷諏訪総合技術新校

「創造」と「挑戦」の学び舎

検討原案

1

VOL.

一人ひとりが自分の「やってみたい」を見つけ、自ら考えて挑戦し、夢の実現を目指す学校です。商業・工業・家庭の分野を専門的かつ横断的に学び、地域をフィールドに企業・自治体・大学・地域の人々と連携した実践的な学びで、柔軟な心と豊かな人間性を育て未来の社会を支える人材を育成します。

目指す学校像

- ▶ 専門性を高めるとともに、学科の枠を越えた連携や学びの融合を通して幅広い知識とスキルを身につけ生徒一人ひとりの「夢」を「現実」にできる学校。
- ▶ 一人ひとりを大切に、互いに認め合い、柔軟な心と豊かな人間性、社会性を育む学校。
- ▶ 実社会や地域産業、大学と連携して、実践的な課題解決プログラムに取り組み、持続的発展のために環境問題・社会課題に挑む人材を育てる学校。

育てる生徒像

- ▶ **自ら考え、挑戦するひと**
自ら考え何事にも一生懸命に取り組める生徒。壁を乗り越える実行力と挑戦への意欲を持ち、学びを深めて学びつづけるひと。
- ▶ **専門性と総合的な視点を持った新たな「価値」「もの」を創造するひと**
専門性の学びを活かし、多様な分野に関心を持つ広い視野を持つゼネラリスト（オールラウンダー）の視点を活かし新たな「価値」「もの」を創造するひと。
- ▶ **豊かな社会性と人間性をもったひと**
多様な他者との関わりの中で、豊かなコミュニケーション力を身につけ、互いを尊重しながら協働的に課題に取り組むことができるひと。
- ▶ **地域の未来を支え貢献できるひと**
自主・自立・主体的に学ぶ姿勢から、地域に学び地域を知り、未来の諏訪地域を支え貢献できるひと

学びの柱

- ▶ 専門性と専門教科の横断的な学びから総合的な視点を持ち幅広い知識とスキルを身につける学び。
- ▶ 地域と連携し、企画から開発、製造、販売までのプロセスを学び、地域をフィールドとした実践を通じて技術と創造性を育む学び。

学科・学びの内容・特色

定時制 学校像、生徒像 学び



学びの連携プラットフォーム

学科を超えた学び、活動を融合する
ハード、ソフトの仕組み

工業・商業・家庭 学びの連携・融合

異なる専門分野の融合から、新たなものうみだす

広い視野と実践力・応用力を育てる

「学科横断 協働探究プロジェクト」

- ❖ 総合的な探究の時間・課題研究
- ❖ 3年間で深化する探究
 - 1年 探究基礎、
 - 2年 探究実践（地域実習）
 - 3年 課題研究
- ❖ **学びが交わる空間**

工業・商業・家庭科連携の体験型イベント

「未来社会の担い手を育てる“高校生万博”
「公開型プロジェクト学習」

学科横断チームがそれぞれの専門性を活かし、来場者が「ものづくり」「暮らし」「ビジネス」を体験できるイベントを企画運営し、社会課題の解決に挑戦する実践的な学びを社会に発信する。

多様な進路に対応する柔軟な学び

「好き」を見つけ極める

- ❖ 専門家（本物）と出会うキャリア教育
- ❖ 学校間連携・インターンシップなどの
学校外の活動や実習を単位認定
- ❖ **学科を越えた選択科目**
- ❖ 総合技術高校での学びを活かした**資格取得**



多様な人間関係・交流の促進

切磋琢磨できる仲間にてあい、
安心できる居場所がある学校

- ❖ クラス編成、講座編成の工夫
（ホームルーム編成、コース編成の検討）
- ❖ 学年・学科に縛られない合同ゼミ
- ❖ **職員も生徒と共に学びあう**
- ❖ クラスを越えた**交流が生まれる空間**

地域連携のしくみ

- ▶ **地域連携協働 地域連携コーディネーター**による企業・大学・関連機関との連携調整
- ▶ **地域連携協働チームの創設、地域探究ラボ（地域連携協働室）** 探究学習の拠点
- ▶ 地域演習にとりくむ**時間の確保**



2時間連続の時間割等フィールドワークに出やすい仕組み

1日校外演習日を設けて、地域演習の時間を保証し**探究活動を単位認定** →学期ごと、半期、通年など

企業連携



**企業との連携
(例)**

学校間連携

- ▶ 大学 合同ゼミ
- ▶ 小中学校 出前講座

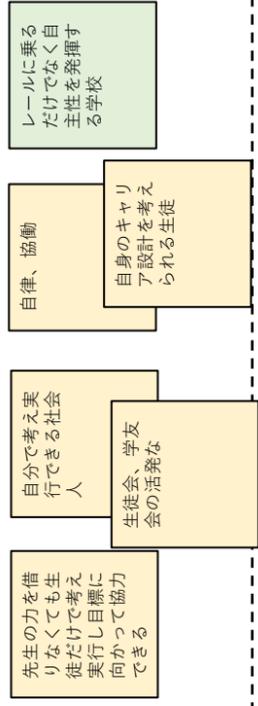
**学校間連携
(例)**

地域その他連携

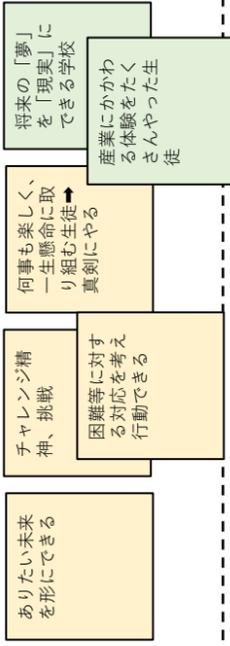
- 「くらしラボ」
～地域課題に寄り添うプロジェクト～
- ▶ モノづくり工房
 - ▶ 地域広 報情報発信
 - ▶ 持続可能なしくみの提案

育てたい生徒像

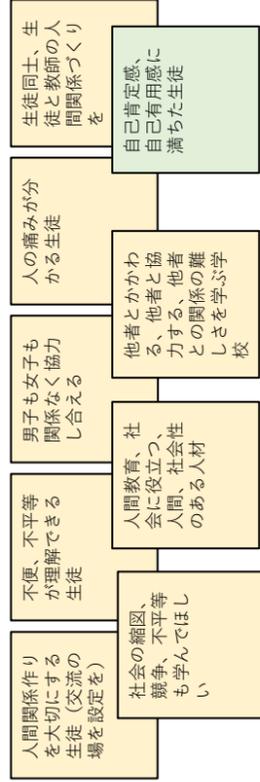
自主・自立・主体的・自ら考え・自律・協働



チャレンジ・挑戦・行動・夢・実現



人間関係・コミュニケーション・自己肯定感・思いやり



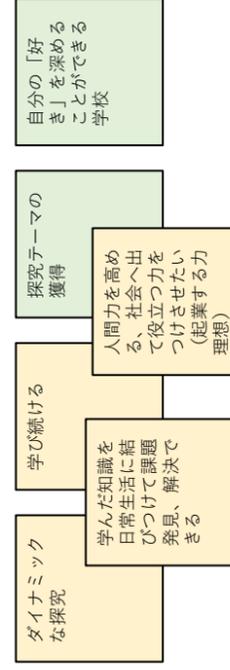
リーダーシップ



専門性・総合的な力・即戦力

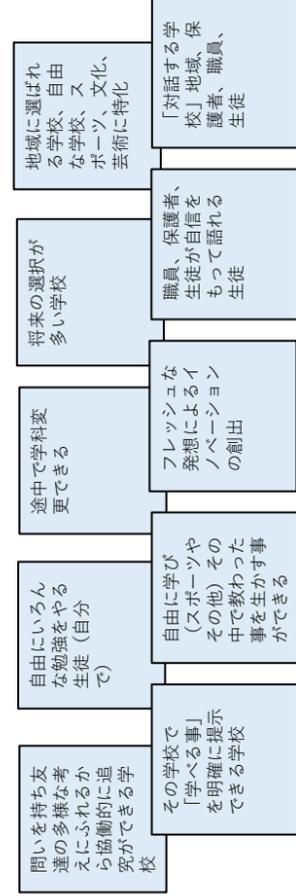


探究・課題発見・学び続ける

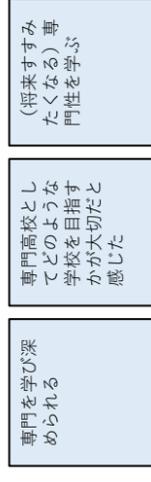


目指す学校像

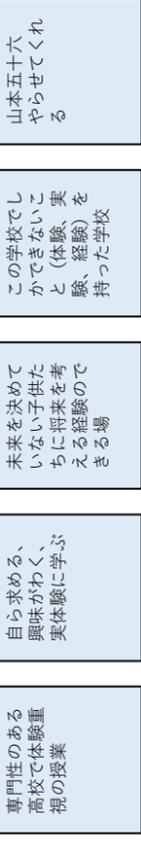
自立・自由な学び・協働的・対話的・選択が多い・多様性



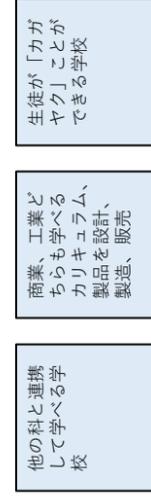
専門性



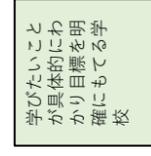
体験・実践・経験



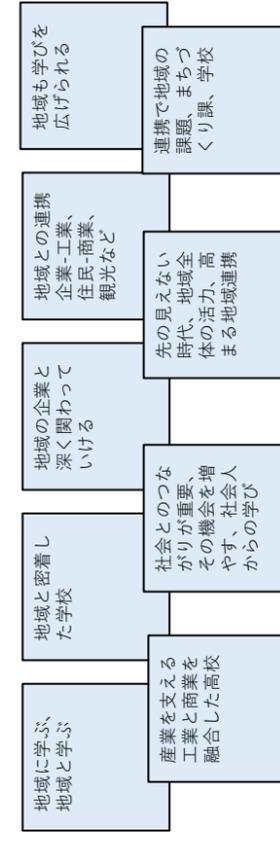
学科連携・他科連携



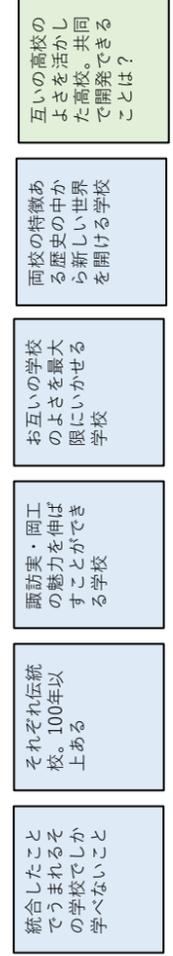
目標を持てる



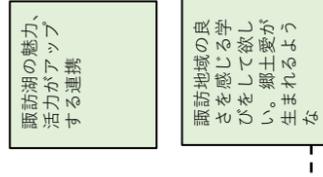
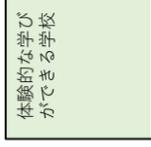
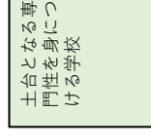
地域に学ぶ・企業・大学・連携



両校の良さをいかに



多様な学び・柔軟なカリキュラム、単位認定・自由・新しい学び・コース変更できる・AIの活用



色が異なる意見は、他の項目に分類されていたものを移動したものを

第4回懇話会資料

第2回岡谷諏訪総合技術科新校再編実施計画懇話会グループワークで出された意見（一覧）

順不同

① それぞれの高校の良いところ

懇話会で出された意見	概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を学び、実質的な資格が取れる ・両校とも高い専門性があり生徒が具体的な目標を持てる（岡工） ・服飾科は県下唯一で岡谷シルクの文化を伝承している（諏訪実） ・国家資格が取得できる（岡工） ・長野県唯一の服飾科がある（諏訪実） ・5科それぞれに特色があり、伝統と今の技術をとことん深めている（岡工） 	専門性	高い専門性 資格 伝統と今の技術 服飾科
<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪実は地域や企業とのコラボ、岡工は諏訪地域の製造業の一翼を担っている ・地域の人々とともに学び、地域に出て活動することができる（諏訪実） ・諏実タウンやキッズビジネスなど地域を取り込んでいる（諏訪実） ・両校とも教室内の学びだけでなく、地域社会とのつながりの中での学びがある ・地域企業とふれあい、交われる（岡工） ・地域とつながり、外に発信していくところ（諏訪実） ・ものづくりに関して地域連携ができていく（岡工） ・実践的な学びに取り組んでいる（岡工） ・商品開発から販売を通じ社会とのつながりがうまれる（諏訪実） 	地域とのつながり	地域や企業とのコラボ ものづくりに関して地域連携 商品開発から販売までおこない社会とつながりがある 産業界とのつながり 製造業の一翼 地域を取り込んでいる 地域に出て活動 /実践的な学び 校外に発信
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が活発（岡工） ・岡工はスポーツのクラブが強い 	クラブ	部活動が活発（岡工）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した、地域に求められる人材の輩出が強い（岡工） ・産業界とのつながりが強く、地域の技術を担う人材を育成している（岡工） 	人材輩出	地域に求められる人材の輩出 地域の技術を担う人材
<ul style="list-style-type: none"> ・定時制では中学までに学びのリズムを崩した人も学び直しができる（諏訪実） ・定時制を有し社会問題に取り組んでいる（諏訪実） 	定時制 学び直し	定時制 学び直し
<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことが明確な生徒が多い 	目的意識	やりたいことが明確

② 両校が一緒になることによってどのように変わっていくことを期待するか

懇話会で出された意見	概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立 ・起業家を育てる学び ・商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出す ・岡工のものづくりと諏訪実の商売がコラボして、諏訪の商売につなげる総合ビジネススクール ・新しい商品を作るモデルになる学校にしたい 	学びの融合連携	専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立 両校の融合 連携した学び 効率化や新たな学び 商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出す
<ul style="list-style-type: none"> ・製造・販売が学校一つで成り立ち、完成できる ・商品の企画を諏訪実が、製造を岡工が、売り方や営業を諏訪実が行う ・諏訪実の簿記や服飾デザインと岡工のコンピュータを組み合わせ、効率化や新たな学び ・機織り機で布を作り、服飾科が製品化し、商業科で販売するというような連携した学び ・情報技術の学習で服飾科のデザインを商品化したり、シルクを環境化学科の学習に生かすなど両校の融合 ・ファッションショーの照明を岡工がプログラミングする 		起業家を育てる学び 総合ビジネススクール ワーキングスペースとして、新しい商品を作るモデルになる学校
<ul style="list-style-type: none"> ・授業のコラボレーション、生徒会で一緒に何か 	今できること	授業のコラボレーション 生徒会で一緒に何かを行う
<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し単位取得 ・繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携 ・定時制など時間や場所を限定しない多様な学び 	学び方連携	大学と連携し単位取得 繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携 定時制など時間や場所を限定しない多様な学び
<ul style="list-style-type: none"> ・男女のバランスが良い学校 ・男女間の交流 ・地域を愛する人の育成 	キャンパスライフ	男女のバランスが良い学校 男女間の交流 地域を愛する人の育成

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会 校地検討部会 構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	宮坂 享	岡谷市教育長
2		三輪 晋一	諏訪市教育長
3	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所 副会頭
4		白鳥 和美	諏訪商工会議所 副会頭
5	同窓会	小松 壮	岡谷工業高等学校同窓会 会長
6		木村 明美	諏訪実業高等学校同窓会 副会長
7	学校関係者	橋詰 正克	岡谷工業高等学校 校長
8		有賀 浩	諏訪実業高等学校 校長